



# I 当期の業績

## (1) 損益計算書 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

期別 科目	前年度 第2四半期 2023.10.1～	前年度 第3四半期 2024.1.1～	前年度 第4四半期 2024.4.1～	当年度 第1四半期 2024.7.1～	当年度 第2四半期 2024.10.1～	当年度 累計 2024.7.1～	前年同期 比	前年度 同期累計 2023.7.1～
	2023.12.31	2024.3.31	2024.6.30	2024.9.30	2024.12.31	2024.9.30		2023.9.30
I 営業収益 売上高	596,093	532,118	551,534	730,974	621,367	1,352,342	+0.3%	1,348,107
II 営業費用 売上原価	473,217	480,593	495,684	488,293	487,232	975,525	+3.0%	947,003
販売費及び一般管理費	<u>72,732</u>	<u>58,779</u>	<u>65,812</u>	<u>64,787</u>	<u>69,869</u>	<u>134,656</u>	+0.1%	<u>134,506</u>
営業利益または営業損失(▲)	50,143	▲7,254	▲9,962	177,894	64,266	242,160	▲9.2%	266,598
III 営業外収益	2,556	1,719	2,304	1,717	1,776	3,493	▲6.3%	3,729
IV 営業外費用	<u>8,197</u>	<u>7,484</u>	<u>17,328</u>	<u>8,213</u>	<u>7,632</u>	<u>15,845</u>	▲2.4%	<u>16,230</u>
経常利益または経常損失(▲)	44,502	▲13,018	▲24,986	171,397	58,410	229,808	▲9.6%	254,096
V 特別利益	-	-	-	59,211	-	59,211	-	-
VI 特別損失	<u>0</u>	<u>2,184</u>	<u>300</u>	<u>25,570</u>	<u>36,480</u>	<u>62,050</u>	+160.1%	<u>23,859</u>
税引前四半期(当期)純利益または純損失(▲)	44,502	▲15,203	▲25,286	205,039	21,930	226,969	▲1.4%	230,237
法人税、住民税	4,383	4,383	3,947	4,115	4,115	8,230	▲6.1%	8,766
法人税等還付額	-	-	-	-	-	-	-	-
法人税等調整額	-	-	▲31,349	-	-	-	-	-
四半期(当期)純利益または純損失(▲)	40,119	▲19,586	2,114	200,924	17,815	218,739	▲1.2%	221,470
期中平均株式数	5,589	5,589	5,589	5,589	5,589	5,589	-	5,589
1株当たり四半期(当期)純利益または純損失(▲)	7,178円	▲3,505円	378円	35,950円	3,188円	39,138円	▲488円	39,626円

- ・潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- ・当年度第2四半期の特別損失36,480千円は、9月に退任した前取締役3名に対する役員退職慰労金の支払いによるものです。

## (2) 貸借対照表 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	前年度 第2四半期 末 2023.12.31	前年度 第3四半期 末 2024.3.31	前年度 第4四半期 末 2024.6.30	当年度 第1四半期 末 2024.9.30	当年度 第2四半期 末 2024.12.31
(資産の部)	I 流動資産					
	現金預金	953,960	759,292	783,127	827,023	868,652
	その他	140,892	179,078	225,106	265,027	261,850
	流動資産合計	1,094,853	938,371	1,008,234	1,092,050	1,130,502
	II 固定資産					
	リース資産	212,425	202,962	192,486	-	-
	他の有形固定資産	814,580	797,472	784,927	810,274	788,874
無形固定資産(リース資産を含む)	1,703	1,008	543	17,303	16,428	
投資その他の資産	253,202	252,404	203,669	203,020	202,063	
固定資産合計	1,281,912	1,253,847	1,181,626	1,030,598	1,007,367	
資産合計	2,376,766	2,192,219	2,189,860	2,122,649	2,137,870	
(負債の部)	I 流動負債					
	リース債務	353,087	199,608	293,783	227,324	223,964
	II 固定負債					
リース債務	227,093	215,080	201,609	-	-	
他の固定負債	1,871,829	1,872,361	1,787,184	1,787,116	1,787,882	
負債合計	2,452,010	2,287,050	2,282,577	2,014,441	2,011,847	
(純資産の部)	I 株主資本					
	資本金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	資本剰余金 資本準備金	68,916	68,916	68,916	68,916	68,916
	その他資本剰余金	41,710	41,710	41,710	41,710	41,710
	利益剰余金 繰越利益剰余金	▲229,072	▲248,659	▲246,545	▲45,620	▲27,805
	自己株式	▲56,798	▲56,798	▲56,798	▲56,798	▲56,798
株主資本合計	▲75,244	▲94,831	▲92,716	108,207	126,023	
純資産合計	▲75,244	▲94,831	▲92,716	108,207	126,023	
負債・純資産合計	2,376,766	2,192,219	2,181,972	2,122,649	2,137,870	
発行済株式総数(株)	5,589株	5,589株	5,589株	5,589株	5,589株	
1株当たり純資産(円)	▲13,463円	▲16,967円	▲16,589円	19,361円	22,548円	

- ・リース資産とリース債務は0となっているのは、所有権移転外ファイナンスリース取引を、通常の会計処理に戻したことによるものです。
- ・他の固定負債のうち、商工組合中央金庫からの300,000千円と日本政策投資銀行からの300,000千円は、それぞれ資本性借入金であり、金融検査上資本とみなされるものです。

**(3) 株主資本等変動計算書** (2024年7月1日～12月31日、単位：千円、千円未満は切り捨てて表示)

項目	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	その他利益剰余金			
				繰越利益剰余金			
当期首残高	100,000	68,916	41,710	▲246,545	▲56,798	▲92,716	▲92,716
第1四半期中の変動額 四半期純利益				200,924		200,924	200,924
第1四半期中の変動額の合計				200,924		200,924	200,924
2024年9月30日残高	100,000	68,916	41,710	▲45,620	▲56,798	108,207	108,207
第2四半期中の変動額 四半期純利益				17,815		17,815	17,815
第2四半期中の変動額の合計				17,815		17,815	17,815
2024年12月31日残高	100,000	68,916	41,710	▲27,805	▲56,798	126,023	126,023

**(4) 貸借対照表および損益計算書の作成の基本となる事項**

四半期の貸借対照表および損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則および手続は、下記事項を除き正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「第30期事業報告書 注記表 I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」をご参照ください。

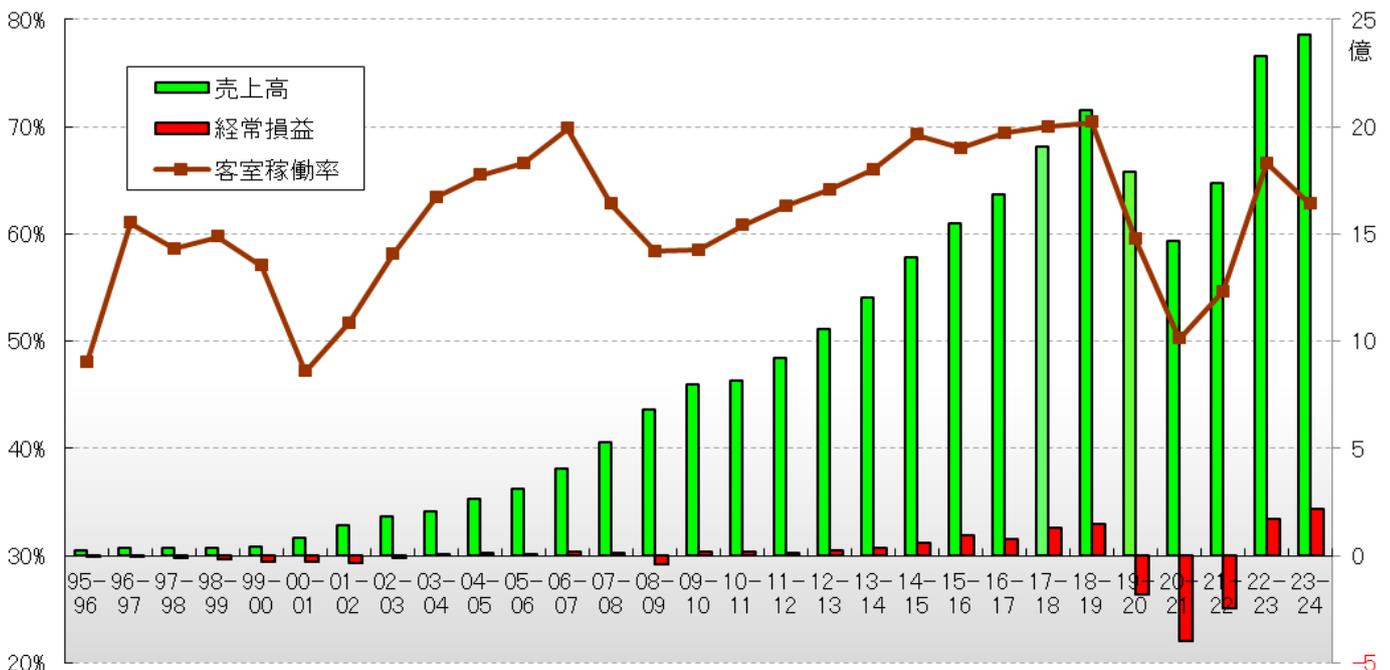
ただし、当年度より所有権移転買取りファイナンスリース取引については、通常の処理に戻しております。

なお、事業年度の貸借対照表および損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

- 固定資産の減価償却の方法 各四半期の減価償却費は年間償却見積額の4分の1相当額を計上しています。
- 経過勘定項目 未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間収益または期間費用として処理しています。
- 消費税等の会計処理 仮払消費税等および仮受消費税等は、相殺のうえ、差額を流動資産または流動負債として計上しています。

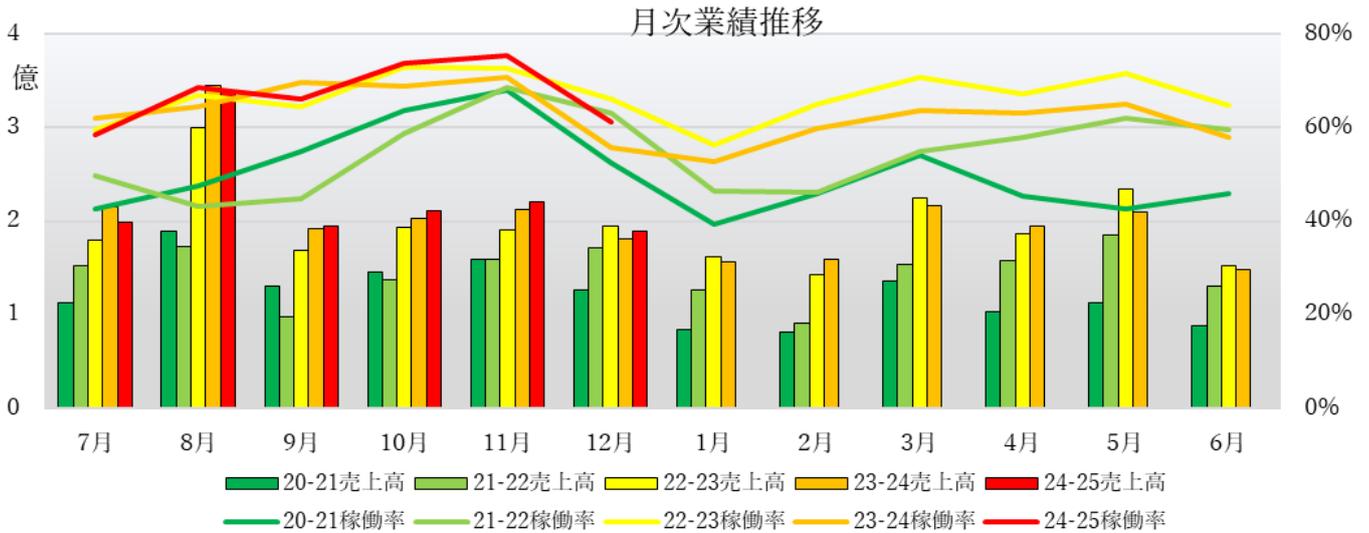
**II 第31期 (2024年7月1日～12月31日) の業績の概況**

**(1) 前年度までの、売上高・経常損益・客室稼働率(全社合計)の年度別推移** (通期)



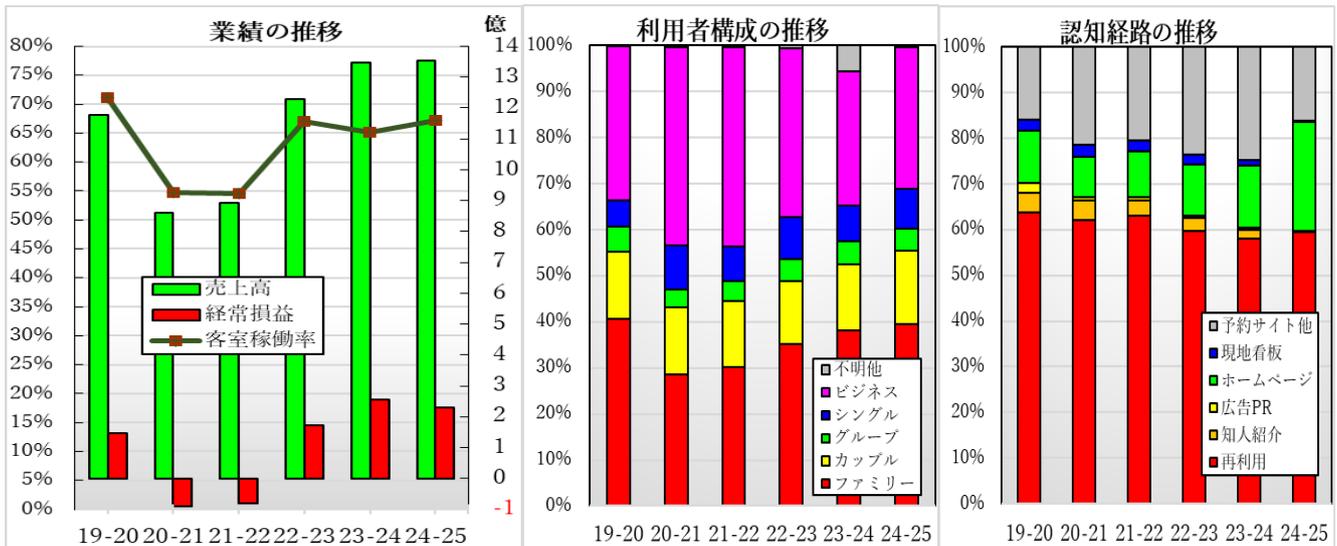
コロナ禍により2020年から2022年にかけて売上が急減し、3期連続で経常赤字となりましたが、コロナ禍の収束と2度の室料値上げにより前年度は売上高、経常利益とも過去最高となりました。ただし、客室稼働率はコロナ前の水準に戻っておりません。なお、前年度において「北上江釣子店」と「秋田六郷店」は契約期間満了により閉店、「那須店」と「日光鬼怒川店」はそれぞれ建替えと補修工事のため一時休業、「金沢内灘店」は能登半島地震により閉店し、営業中の店舗は現時点で72店舗となっております。

## (2) 月次の業績推移



売上高は、2022年春以降2023年夏頃までは前年同月を大きく上回り、コロナ禍からの回復基調が続いておりましたが、その後は増減を繰り返し、昨年5月以降は前年を下回っておりました。しかし、9月からは上回る状況が続いております。客室稼働率についても、2021年12月以降回復基調にありましたが、2023年12月以降は前年を5ポイント以上下回る状況が続いておりました。しかし、昨年10月以降は5ポイント前後上回る状況が続いており好調に推移しております。

## (3) 上半期の比較 (7月1日～12月31日)



過去5期との比較では、売上高・経常利益・客室稼働率とも、コロナ禍の収束により急回復後足踏み状態でしたが、第2四半期に入りようやく前年を上回る状況が続くようになっております。

利用者構成は、コロナ禍によりファミリー客の減少が目立っておりましたが、ほぼ以前の割合に戻ってきました。

また、認知経路は、リピーターの割合が微増に転じ、ホームページの割合が増えております。

## Ⅲ 第31期の売上高および利益の予測について (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	第27期	通期実績	第28期	通期実績	第29期	通期実績	第30期	通期実績	第31期	通期予想
		2020.7.1～2021.6.30		2021.7.1～2022.6.30		2022.7.1～2023.6.30		2023.7.1～2024.6.30		2024.7.1～2025.6.30	
売上高			1,468,293		1,735,040		2,330,659		2,431,760		2,471,000
経常利益			▲400,658		▲246,384		169,268		216,090		160,000
当期純損益			▲417,101		▲329,585		200,088		203,997		120,000

## IV 資金および借入金の状況

### (1) 現金および預金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	期	第30期第2四半期 2023.10.1～12.31	第30期第3四半期 2024.1.1～3.31	第30期第4四半期 2024.4.1～6.30	第31期第1四半期 2024.7.1～9.30	第31期第2四半期 2024.10.1～12.31
現金および預金の増減額		▲28,765	▲194,667	+23,835	+43,895	+41,629
現金および預金の四半期首残高		982,726	953,960	759,292	783,127	827,023
現金および預金の四半期末残高		953,960	759,292	783,127	827,023	868,652

### (2) 短期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	期	第30期第2四半期 2023.10.1～12.31	第30期第3四半期 2024.1.1～3.31	第30期第4四半期 2024.4.1～6.30	第31期第1四半期 2024.7.1～9.30	第31期第2四半期 2024.10.1～12.31
短期借入金の増減額		—	▲152,344	+84,976	—	—
短期借入金の四半期首残高		152,344	152,344	0	84,976	84,976
短期借入金の四半期末残高		152,344	0	84,976	84,976	84,976

### (3) 長期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	期	第30期第2四半期 2023.10.1～12.31	第30期第3四半期 2024.1.1～3.31	第30期第4四半期 2024.4.1～6.30	第31期第1四半期 2024.7.1～9.30	第31期第2四半期 2024.10.1～12.31
長期借入金の増減額		—	—	▲84,976	—	—
長期借入金の四半期首残高		1,847,831	1,847,831	1,847,831	1,762,852	1,762,852
長期借入金の四半期末残高		1,847,831	1,847,831	1,762,852	1,762,852	1,762,852

### (4) 投資その他の資産の内訳 第31期第2四半期末(2024年12月31日)時点(千円未満は切り捨てて表示)

172,750千円	… 借上直営店における差入れ保証金(契約満了時返済)
25,672千円	… 「水戸大洗店」修繕立替金
1,210千円	… 取引信用金庫などへの出資金
1,230千円	… 信用保証協会への信用保証料
1,165千円	… 繰延税金資産
34千円	… リサイクル預託金
合計 202,063千円	

## V 今後の事業展開について

### 「日光鬼怒川店」営業再開日が決定

建物の老朽化と設備不調により、2023年12月下旬に営業を停止しておりましたが、補修工事を行い、3月7日より営業を再開することに決め、すでに予約の受付を再開しております。

「那須店」についても、ようやく設計案がまとまり、3月に新築工事に着手し、7月には竣工、営業を再開する予定です。

### 新規出店計画

複数の案件について協議を進めておりますが、建築費の高騰により難航しております。「那須店」の新築計画において建築コストの低減を試みており、その状況を見ながら、慎重に具体化を図っていきたいと考えております。

### クレジットカード払いの受け入れ

手数料は利用者が負担すべきであるとの考えから、カード払いを限定的にししか受け入れておりませんでした。3月1日より、全店舗でチェックイン時にご利用いただけるようにする準備を進めております。

### 債務超過の解消

コロナ禍による売上急減により、2021年6月期より3年間にわたって債務超過の状態が続いておりましたが、売上の回復と宿泊料金の値上げなどによって黒字に戻り、昨年9月末の時点で債務超過の状態が解消されました。業績は引き続き好調ですので、純資産額を拡大し、経営の安定化をさらに図っていきたいと考えております。なお、コロナ禍において、日本政策投資銀行や商工中央金庫からの資本性ローンを含め、金融機関から元金返済の猶予など強力なサポートをいただきました。今後の業績の推移を見ながら、来期には通常取引に戻すことも検討したいと考えております。

### 社内体制の見直しと強化

昨年11月より全国7ブロックにエリアサポーターを配置し、店舗の運営状況や社内コミュニケーションの維持改善を図っておりますが、概ね順調に推移しております。また、コロナ禍により果たせなかった社員の労働条件や待遇改善についても鋭意抜本的な見直しを続けており、来期からの実施を計画しております。

「旅籠屋らしさ」を守り、「清潔であたたかい宿、清潔であたたかい職場」を実現していきたいと考えております。

以上